

高校生 I C T 2022 Conference

in 新潟

～テーマ～

デジタル社会における学び方と学びの場

ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」

開催報告書

2022年8月18日（木）13:00-17:50

【会場】：オンライン

主催

新潟県サイバー脅威対策協議会

高校生 I C Tカンファレンス実行委員会

（構成団体）

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2022年9月1日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2022 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2022in 新潟 開催概要.....	4
4. 主担当.....	8
5. 高校生 ICT Conference 2022 サミット.....	8
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	8
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	8

1. 開催概要

名称：	高校生 ICT Conference 2022 テーマ： デジタル社会における学び方と学びの場 ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」
主催：	新潟県サイバー脅威対策協議会 高校生 ICTカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構新潟県教育委員会、新潟県高等学校長協会、新潟県高等学校 PTA 連合会
協賛：	グーグル合同会社、日本マイクロソフト株式会社、株式会社ラック、株式会社メディア開発綜研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、Twitter Japan 株式会社、グリー株式会社、アルプス システム インテグレーション株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、株式会社サイバーフェリックス
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社
開催目的：	高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2021 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 73 校 278 人の高校生が参加しました。 高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。

	<p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>2019年12月に感染が始まった新型コロナにより、それ以前の日常は激変し、人と人が直接接する機会をなるべく減らす新しいコミュニケーションの時代に入っています。学校においては同年代が集まり語り合い、切磋琢磨するこれまでの姿は無くなり、分散登校やオンライン授業の導入、マスクの常時着用や部活動の制限による社会的距離の確保を前提とする学校生活に変わりました。中でも、高校生に大きな影響を及ぼしているのがオンライン授業の広範囲な導入です。</p> <p>コロナの完全終結は未だですが、ワクチン接種や治療薬の開発が進み、少しずつ新たな生活スタイルの模索が始まっています。これから始まる新しい生活スタイルはどうなるのか、新型コロナにより待たなしで始まった現在のデジタル社会はどう変わるのか。オンラインをテーマに問題点や課題を洗い出し、新たなデジタル社会への希望とこれまでとは違うライフスタイルへの期待を明らかにする。</p> <p>※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】 ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地	募集参加生徒 30名（各開催地により変動あり）
募集人員等：	募集見学者各回 30名（各開催地により変動あり）
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT研究会理事・消費者

	団体訴訟室長) <ul style="list-style-type: none"> ・ 植田 威 (特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事) ・ 小城 英子 (聖心女子大学) ・ 他、関係者団体、事業者等 【事務局】 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 〒104-0041 東京都中央区新富二丁目 4 番 5 号 ニュー新富ビル 4 階 TEL: 03-6280-4901
--	---

2. 高校生 ICT Conference 2022 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
札幌	10月2日	オンライン
茨城	8月23日(延期)	茨城県立石岡第一高等学校
東京	9月19日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
新潟	8月18日	オンライン
石川	10月2日	金沢勤労者プラザ
長野	10月15日	オンライン
静岡	9月11日	専門学校 静岡電子情報カレッジ
大阪	9月18日	オンライン
奈良	10月9日	帝塚山大学
高知	8月16日	オーテピア
福岡	9月23日	福岡県中小企業振興センター
長崎	8月20日	オンライン
大分	9月19日	大分市
全国オンライン	10月10日	オンライン
サミット	11月3日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
最終報告会	未定	

3. 高校生 ICT Conference 2022in 新潟 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 64 名の参加者を得て、“デジタル社会における学び方と学びの場 オンライン環境で「出来ること」「すべきこと」”をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【熟議】</p> <p>司会進行・主旨説明 草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 落合 博幸 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 総務省信越総合通信局 情報通信部 電気通信事業課 課長 傳田 剛 様 新型コロナの流行で、職場ではオンラインが活用され、学校でもオンライン授業が導入されている。</p>
----	--

幼児からスマホの使用も進んでおり、低年齢層から ICT リテラシーを身に付けることが益々重要になってきている。

ICT は情報の収集、整理、活用に欠かせないものであるが、モラルアップによる適正で責任を持った利用やマナーが求められる。

高校生 ICT カンファレンスでは初めて会う人と議論して提言をまとめていただき、柔軟な発想で取り組んで欲しいとお話いただきました

第一部 事業者による講演

ByteDance 株式会社 金子 陽子 様

最近の TikTok から伝統、教育、報道、芸術、行政等の様々な自発的活用事例を紹介いただいたのち、事業者として安心安全な利用のため、AI や人による監視、通報システムなどを整備していること、また、TikTok で導入した Rethink システムを例に、行動の前に立ち止まって冷静に考えることの必要性についてお話しいただいた。

最後に判らない時は「発信・拡散しない」「情報源を確かめる」「発信者の意図を考える」という利用の原則について説明をいただきました。

第二部：熟議「デジタル社会における学び方と学びの場」

ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」

新潟県警察サイバーボランティアの学生がファシリテーター役となり、各ブレイクアウトセッション内でアイスブレイクを行った後、高校生が熟議を開始しました。

熟議の内容は、参加生徒の意見をグーグルスライドに整理しながら、まとめを行っていきました。

第三部：グループ発表

各グループともグーグルスライドを活用して 3 分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

その後、Google フォームを使い、参加生徒・ファシリテーター・担当教員らが 11 月 3 日に開催される東京サミットに行く代表生徒の選定投票を行いました。

その結果、最も投票数の多かった第 7 班の中で私立北越高等学校 2 年男子生徒が代表生徒として選出されました。

講評

最後に敬和学園大学人文学部教授 一戸 信哉 様から本日の講評をいただきました。

これまで、オンライン教育をどうするかという議論が行われてきたが、結論は出ていない状況の中で、高校生からはよりよいオンライン環境を作っていくべきだと

	<p>いう提案が多かった。</p> <p>オンライン教育を充実させるために、どこに焦点を当てていくのかがポイントになっているのではないかと思うが、現実的なポイントに的を絞ることが大切ではないか。</p> <p>また、誰一人取り残さない AI を活用した一人一人にあった平等なオンライン教育などは、キーワードとして良かったのではないかと思う。</p> <p>教科書や板書の電子化、機材の整備、従来の授業の在り方、オンデマンドコンテンツをどう整備するか、これらを学校へどのようにして取り入れていくか具体的に考えても良かったと思うが、難しい課題はあるものの、今後の課題として考えていくことが大切である。</p>
参加校：	<p>学校法人石善学園新潟第一高等学校</p> <p>学校法人北越高等学校</p> <p>学校法人日本文理学園日本文理高等学校</p> <p>新潟県立新潟高等学校</p> <p>新潟県立新潟南高等学校</p> <p>新潟県立新潟江南高等学校</p> <p>新潟県立新潟商業高校</p> <p>新潟県立新潟工業高等学校</p> <p>新潟県立巻高等学校</p> <p>新潟県立新津高等学校</p> <p>新潟県立新津工業高等学校</p> <p>新潟県立村上高等学校</p> <p>新潟県立津南中等教育学校 (順不同)</p>
日時：	2022年8月18日(木) 13:00-17:50
場所：	オンライン
参加人数：	<p>熟議参加生徒 34人</p> <p>見学者・関係者 30人(教員・教育関係者・その他)</p> <p>合計： 64人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>【1班】 5名</p> <p>津南中等教育学校3年男子、新潟商業高等学校2年男子、新津高等学校1年女子、村上高等学校2年男子、北越高等学校2年男子</p> <p>[ファシリテーター]</p> <p>敬和学園大学4年 涌井 信行</p> <p>敬和学園大学2年 高橋 彩香</p> <p>【2班】 5名</p> <p>新潟高等学校2年男子、新潟第一高等学校2年男子、新津高等学校2年男子、村上高等学校2年男子、日本文理高等学校2年男子</p>

[ファシリテーター]

敬和学園大学2年 本田 礼奈

敬和学園大学2年 妻島 優斗

【3班】 5名

新潟工業高等学校3年男子、新潟第一高等学校1年女子、新津高等学校2年男子、
日本文理高等学校3年男子、北越高等学校2年女子

[ファシリテーター]

新潟コンピュータ専門学校1年 小暮 太翔

新潟コンピュータ専門学校1年 山崎 奏汰

新潟コンピュータ専門学校3年 金子 梧月

【4班】 5名

新潟江南高等学校2年女子、新潟第一高等学校1年女子、新津工業高等学校3年
男子、日本文理高等学校3年男子、北越高等学校2年男子

[ファシリテーター]

新潟コンピュータ専門学校1年 上村 日向

新潟コンピュータ専門学校1年 結城 開

新潟コンピュータ専門学校2年 原田 泰知

【5班】 5名

新潟江南高等学校2年女子、新潟南高等学校1年男子、新津工業高等学校3年男
子、日本文理高等学校3年男子、北越高等学校2年女子

[ファシリテーター]

新潟コンピュータ専門学校2年 本間 大聖

新潟コンピュータ専門学校1年 鈴木 唯希

【6班】 4名

新潟江南高等学校1年男子、新潟南高等学校1年男子、巻高等学校2年男子、北
越高等学校2年男子

[ファシリテーター]

新潟コンピュータ専門学校2年 木村 実央

新潟コンピュータ専門学校1年 新保 倫

【7班】 5名

新潟商業高等学校2年男子、新津高等学校1年女子、巻高等学校1年女子、日本
文理高等学校3年男子、北越高等学校2年男子

[ファシリテーター]

新潟コンピュータ専門学校2年 服部 慎二

新潟コンピュータ専門学校1年 番場 小鉄

4. 主担当

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	事務局
新潟県サイバー脅威対策協議会	会場、什器備品手配、庶務

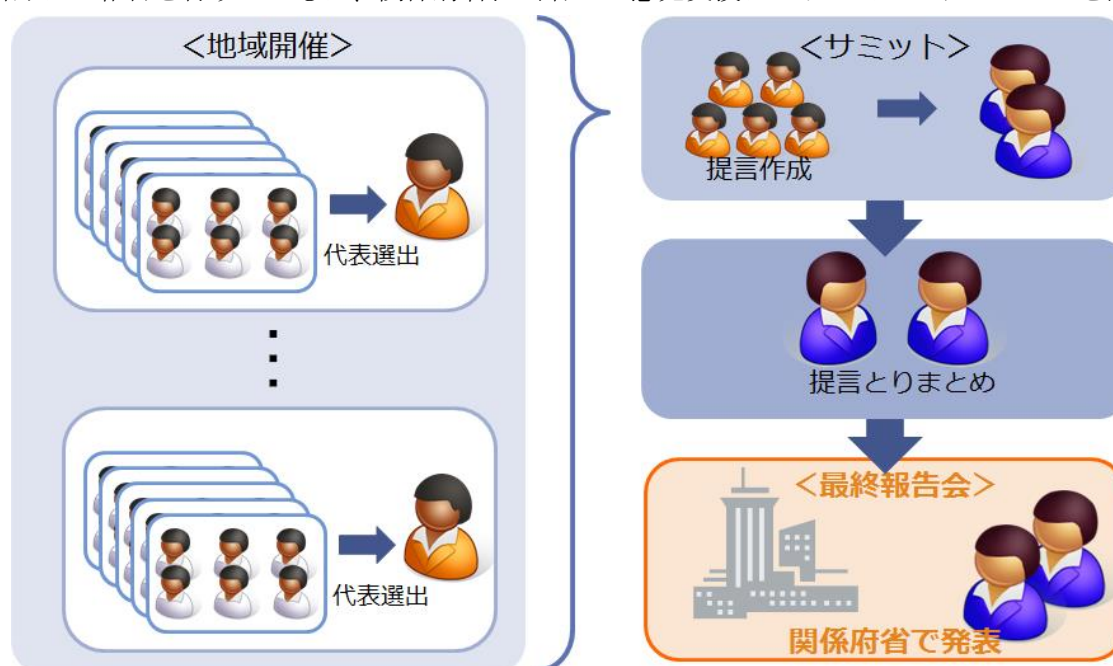
5. 高校生 ICT Conference 2022 サミット

高校生 ICT Conference 2022 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2022 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏る。



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2022 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2022 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以上